

# ユーモア測定尺度の作成

宇 恵 弘\*

## The development of a sense of humor scale

Hiroshi Ue

**要旨：**本研究の目的は、ユーモア測定尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検証することである。576名の大学生を対象に調査をし、5因子20項目の尺度を提案した。この5因子は、ユーモアの表出（意識）、ユーモアの表出（頻度）、ユーモアのコーピング利用、ユーモアへの気づき、ユーモアに対する好悪であった。内的一貫性（ $\alpha$ 係数）は.87、再検査信頼性は.70と尺度の信頼性は高いと考えられる。また、ユーモア志向尺度（上野，2003）との関連もあり、尺度の妥当性も認められた。性差と年齢差は一部の因子にのみみられた。

**Abstract：** The purpose of this study was to construct a scale for a sense of humor and to test its reliability and validity. A sample of 576 undergraduates completed the proposed scale designed to assess five elements of a sense of humor, i.e. expression (consciousness), expression (behavior), coping, sensitivity, and appreciation. High internal consistency (Cronbach  $\alpha$ ) in the .87 and test-retest reliability in the .70 were reported. The validity studies reveal significant correlations between the proposed humor scale and other humor scale (Ueno, 2003). Sex differences and age differences were observed only in limited elements.

**Key words：**ユーモア humor 尺度 scale 信頼性 reliability 妥当性 validity

### 問 題

宇恵（2003a, 2003b, 2004a, 2004b, 2005）は、一連の研究によってユーモア（sense of humor）を測定する尺度について検討をしてきた。これらの研究では、1990年から2000年の10年間に欧米での研究で採用頻度が比較的多くみられた5種類の尺度をとり上げ、そのそれぞれについて因子構造や信頼性と妥当性について調べた。本研究は、それらの研究結果を踏まえて、5種類のユーモア測定尺度を総合し、1つの尺度を作成することが目的である。

5種類の尺度は、Sense of Humor Questionnaire (Svebak, 1974、以下 SHQ)、Coping Humor Scale (Martin & Lefcourt, 1983、以下 CHS)、Humour Initiation (Bell, McGhee & Duffey, 1986、以下 HI)、Humor Orientation Scale (Booth-Butterfield & Booth-Butterfield, 1991、以下 HOS)、Multidimensional Sense of Humor Scale (Thorson & Powell, 1993、以下 MSHS) である。

SHQ は、ユーモアに対する感受性 (habitual sensitivity to humorous messages)、ユーモアに対する好悪 (habitual tendency to enjoy or dislike comical situations)、感情表現の統制 (habitual ten-

\*関西福祉科学大学社会福祉学部 准教授

dency to permit or suppress emotional impulses of joy) の 3 つの次元を測定する尺度である。その後の研究において妥当性の指標として使用されることが多い尺度であるが、Thorson & Powell (1993) をはじめとする多くの研究で問題点が指摘される尺度でもある。Martin & Lefcourt (1983) では内的一貫性が低いという理由から、また、宇恵 (2003b) においても反応に偏りの多いという理由から、感情表現の統制の次元が抽出されなかった。

CHS は、ストレスを緩和するためにユーモアをどのように利用するのかを測定する尺度である。内的一貫性が高い尺度とは言えないが (Martin & Lefcourt, 1983; 宇恵, 2003b)、以後の研究において引用数の多い尺度である。

HI は、ユーモアと社会的スキルとの関連を検討するために作成された尺度である。ユーモアが含まれる行動の頻度を尋ねていることが特徴であるが、その後の研究における引用数は少ない。Bell, McGhee & Duffey (1986) では項目分析は詳細に行われてはいないが、内的一貫性は  $\alpha = .84$ 、宇恵 (2003b) においても  $\alpha = .89$  と高い値を示していた。

HOS は、コミュニケーション場面におけるユーモア表出の程度を測定する尺度である。HI と同様に、その後の研究では引用数は少ないが、Booth-Butterfield & Booth-Butterfield (1991) では  $\alpha = .90$ 、宇恵 (2003b) でも  $\alpha = .92$  と、内的一貫性は高い尺度である。

MSHS は、ユーモアの表出 (production)、ユーモアのコーピング利用 (coping)、ユーモアの受容 (appreciation)、ユーモアへの態度 (attitude) の 4 つの次元を測定する多次元尺度であり、その後の研究において引用数が多い。内的一貫性は高いが、因子構造に不安定さがみられる (Thorson & Powell, 1993; 宇恵, 2003a)。

以上のように、一連の研究結果から明らかとなった問題点は、①それぞれの尺度は類似した構成概念を測定しているが、それぞれの尺度に長所と短所がある、②因子構造が不安定な尺度

が多い (SHQ や SMHS)、③5 種類の尺度を全て施行すると項目数が多く、各尺度の因子に含まれる項目数にもばらつきがある、などが挙げられる。

そこで、本研究の目的は、一連の研究結果を踏まえて、5 種類のユーモア測定尺度の長所をとり入れ、1 つの尺度として統合し、新しいユーモア測定尺度を作成することである。そのとき、以下の点に留意した。①可能な限り項目数を少なくする、②各因子の項目数を揃える、③MSHS のユーモアへの態度因子を、尺度の妥当性因子として利用する。

## 方 法

### 調査時期

2002 年 7 月 (調査 1)、2003 年 7 月 (調査 2)、2004 年 6 月から 7 月 (調査 3) の 3 期。

### 調査対象者

大阪府下と奈良県下私立大学生 576 名 (男子学生 213 名、女子学生 363 名、平均年齢 19.84 歳、 $SD = 2.03$ 、年齢範囲 18 歳 ~ 29 歳) を対象とした。調査 1 から調査 3 の対象者数は以下の通り。調査 1: 244 名 (男子学生 80 名、女子学生 164 名)、調査 2: 157 名 (男子学生 56 名、女子学生 101 名)、調査 3: 175 名 (男子学生 77 名、女子学生 98 名)。

### 尺度の翻訳過程

SHQ、CHS、HI、HOS、MSHS の 5 種類の尺度は、バイリンガルの日本人 1 名の協力を得て、Back Translation 法により日本語訳を行った。翻訳の過程で、大学生 103 名に素案を配布し表現が理解できるかを尋ねた。

### 手続き

大学の講義時間中に配布し、その場で回収した。再調査については、調査 1 の調査対象者のうち 22 名 (男子学生 12 名、女子学生 10 名) に対して 5 ヶ月後行った。

## 測定方法

(調査1から調査3) SHQ は21の質問項目に対して4件法で回答を求めた(選択肢の内容は項目によって異なる)。CHS は7つの質問項目に対して、「そう思う」から「そう思わない」の4件法で回答を求めた。HI は6つの質問項目に対して、5件法で回答を求めた(選択肢の内容は項目によって異なる)。HOS は17の質問項目に対して、「そう思う」から「そう思わない」の5件法で回答を求めた。MSHS は29の質問項目に対して、「そう思う」から「そう思わない」の5件法で回答を求めた。(調査3) 新しく作成した尺度の妥当性検証のために、調査1と調査2の5種類の尺度に加えて、ユーモア志向尺度(上野, 2003)を施行した。ユーモア志向尺度は、「攻撃的ユーモア」「遊戯的ユーモア」「支援的ユーモア」の3因子(各8項目)で構成されている。回答は、「あてはまる」から「あてはまらない」の5件法で求めた。

## 分析方法

分析には、SPSS ver. 11.5.j for Windows Base system と AMOS ver. 5.0 を使用した。

## 結 果

### 項目分析と探索的因子分析

SHQ、CHS、HI、HOS、MSHS の5種類の尺度それぞれについて、項目困難度(通過率)と項目識別度(項目・尺度間相関)を調べた後、尺度ごとに探索的因子分析(主因子法、promax 回転)を行った(項目困難度と項目識別度の分析には宇恵・乾原(1997)を参考にした)。この分析を調査1から調査3の各期に行い、先行研究の結果や因子パターン行列の数値などを踏まえ、3期に共通してみられた5因子28項目を選び出した(Table 1、巻末資料)。因子の構成と命名は、「ユーモアの表出(意識)」(HOS と MSHS より)、「ユーモアの表出(頻度)」(HI より)、「ユーモアのコーピング利

用」(CHS と MSHS より)、「ユーモアへの気づき」(SHQ より)、「ユーモアに対する好悪」(MSHS より)とした。「ユーモアの表出(意識)」と「ユーモアのコーピング利用」は2つの尺度から重複して抽出された。

宇恵(2002)が指摘しているように、「ユーモアに対する好悪」の因子は否定的な回答をすることが少なく、項目困難度の分析の過程で除かれる項目群であった。しかし、本研究では、ミネソタ多面人格目録(MMPI)のF尺度のような妥当性尺度としての活用や、ユーモアに対して否定的な考えを持っている対象者の分析などに有用な項目であると考え、この因子に含まれる項目を削除せず分析をすすめた。なお、「ユーモアに対する好悪」因子に含まれる4項目を利用し、以下の条件に合致した資料(男子学生13人、女子学生15人、合計28人)については、不適切な回答をしているとみなし分析資料から除いた：①4項目の合計値が13点以下のケース(調査対象者の4.7%)、②4項目のうち2項目以上に、ユーモアに対して積極的な価値を認めない回答をしているケース(例：「私は冗談を言う人が嫌いです」に対して、「そう思う」や「ややそう思う」と回答している場合)。

次に、調査1から調査3の3期の資料をまとめたデータに対しても上記の5因子が抽出されるのか、また、2つの尺度から抽出された「ユーモアの表出(意識)」と「ユーモアのコーピング利用」は、それぞれいずれの尺度の項目を使用することが適切かについて検証するため、3期の資料をまとめたデータに対して、再度、探索的因子分析(主因子法、promax 回転)を行った。その際、「ユーモアの表出(意識)」と「ユーモアのコーピング利用」は2つの尺度から重複して抽出されたため、5因子20項目の組み合わせを4通り考え、各組み合わせについて分析をした。因子パターンが可能な限り単純構造を示していること、項目表現や選択肢などを考慮し、「ユーモアの表出(意識)」(MSHS

**Table 1** 因子毎の項目と因子パターン行列

因子名/項目	F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	$h^2$
<b>ユーモアの表出 (意識)</b>						
私は友だちからおもしろい人だと思われています。	.91	-.04	.04	-.10	-.02	.72
私はおもしろい話をする人だと言われます。	.90	-.04	-.04	-.07	.02	.69
私は楽しい話をする人だと思われています。	.88	-.01	-.06	.04	-.01	.75
私は人を笑わす話し方ができます。	.68	.17	-.01	.04	.01	.66
<b>ユーモアの表出 (頻度)</b>						
あなたは、自分の知っている冗談や話をして、人を笑わせようとするのがどれくらいありますか。	-.05	.98	-.01	-.07	.03	.84
あなたは、おもしろい動きをしたり、おもしろいことを言って、人を笑わせようとするのがどれくらいありますか。	.01	.89	-.05	-.01	.07	.78
あなたは、ユーモアの表現方法として、だじゃれやゴロ合わせ以外に、機転の利いたおもしろいことを思いつくのがどれくらいありますか。	.04	.64	.06	.13	-.02	.62
あなたは、ユーモアの表現方法として、だじゃれやゴロ合わせをどれくらい使用しますか。	.09	.36	.11	-.07	.05	.21
<b>ユーモアのコーピング利用</b>						
緊張した状況におかれると、何かおもしろいことは無いかと探してしまいます。	-.02	.07	.69	-.07	-.14	.40
何かに挑戦しようとしている状況であっても、笑えることや冗談を考えることができます。	.01	.09	.64	.07	-.15	.47
問題に直面しても、その中におもしろさを見つけようとするれば楽になることがあります。	-.04	-.02	.59	-.06	.12	.36
私の経験では、問題に対処する方法としてユーモアはかなり効果的であると思います。	.01	-.14	.59	.01	.29	.49
<b>ユーモアへの気づき</b>						
おもしろいことに気づくのは、早い方ですか、遅い方ですか。	-.10	.02	.02	-.70	-.08	.58
周りの人はおもしろい点に気づいているのに、自分だけ気づいていないことがありますか。	-.16	.01	-.05	.69	-.09	.35
あなたを楽しませるために相手が見せた、ちょっとした変化や合図を簡単に理解できますか。	-.01	.07	.02	-.67	-.06	.42
その気になれば、たいていの状況で、こっけいなことや、しゃれや、おもしろいことなどを見つけ出すことができますか。	-.24	-.13	-.17	-.28	.07	.41
<b>ユーモアに対する好悪</b>						
冗談を言って周囲の人を元気づけることは無意味なことだと思います。	.02	-.01	.08	.03	-.56	.27
私はユーモアのある人をすばらしいと思います。	-.04	.09	.05	.02	.44	.24
私は冗談を言う人が嫌いです。	-.03	-.06	.04	.00	-.42	.19
笑っていると周りの人も楽しくなると思います。	.01	.08	.02	.02	.26	.10

より)、「ユーモアの表出 (頻度)」、「ユーモアのコーピング利用」(CHS より)、「ユーモアへの気づき」、「ユーモアに対する好悪」の組み合わせによる 5 因子 20 項目を続く分析の候補として選んだ (Table 1)。回転前の累積寄与率は 47.81% であった。

**確認的因子分析**

探索的因子分析の結果抽出された 5 因子につ

**Table 2** 調査時期別の適合度指標

指標	調査 1	調査 2	調査 3
GFI	.894	.890	.837
AGFI	.861	.856	.786
RMSEA	.057	.038	.077

いて確認的因子分析を行った。Table 1 の因子負荷量の値から、1 つの観測変数 (項目) が 1 つの潜在変数 (因子) のみに負荷するモデルを

想定した。調査1から調査3の3期の資料をまとめたデータを対象に分析した結果、適合度指標は、GFI=.931、AGFI=.910、RMSEA=.052であった (Table 2)。

**因子間相関、信頼性と妥当性**

3期の資料をまとめたデータを対象に因子毎に合計値を求め、因子間の関連、各因子の内的整合性 (Cronback の  $\alpha$  係数) を検討した。また、調査1の資料から再検査信頼性を、調査3の資料からユーモア志向尺度との関連をそれぞれ検討した。これらの結果を Table 3 に示した。Table 3 の数値は  $\alpha$  係数を除き Pearson の積率相関係数の値である (「気づき」と「支援」は無相関、「気づき」と「攻撃」、「気づき」と「遊戯」、「好悪」と「攻撃」は5%水準で有意、その他は1%水準で有意)。

Table 3 より、5つの因子間の相関は比較的

高い (.20 から .56) こと、「ユーモアのコーピング利用」「ユーモアへの気づき」「ユーモアに対する好悪」の  $\alpha$  係数が低い (順に、.72、.71、.47) こと、ユーモア志向尺度の「攻撃的ユーモア」との相関が「ユーモアのコーピング利用」を除く4つの因子で低い (.16 から .23) こと、ユーモア志向尺度の3因子と「ユーモアへの気づき」との相関が低い (.13 から .15) ことなどが分かる。なお、因子によって選択肢の数が異なるため、5因子の合計を算出することはできないが、参考資料として Table 3 に数値を掲載した。

**性差と年齢差**

性別による差を調べたところ、「ユーモアの表出 (意識)」と「ユーモアに対する好悪」の因子には差がみられず、残る3因子に有意水準1%で差がみられた (Table 4)。全て、男子学

**Table 3** 因子間相関、信頼性と妥当性に関する統計量

	意識	頻度	coping	気づき	好悪	5因子合計 <sup>a)</sup>
頻度	.56	—	—	—	—	—
coping	.33	.42	—	—	—	—
気づき	.48	.53	.37	—	—	—
好悪	.20	.29	.28	.21	—	—
$\alpha$ 係数	.90	.83	.72	.71	.47	.87
再検査	.71	.62	.67	.59	.71	.70
攻撃	.23	.21	.33	.16	.16	.30
遊戯	.45	.49	.44	.16	.54	.57
支援	.44	.47	.55	.13	.38	.56

a) 参考資料

**Table 4** 性別による各因子の平均値

因子	全体	男子学生	女子学生	t 値
ユーモアの表出 (意識)	13.38( 3.81)	13.36( 3.89)	13.40( 3.77)	-1.08
ユーモアの表出 (頻度)	10.42( 3.89)	11.33( 4.03)	9.90( 3.71)	4.18**
ユーモアのコーピング利用	10.63( 2.47)	11.27( 2.56)	10.26( 2.35)	4.67**
ユーモアへの気づき	11.01( 2.13)	11.41( 2.19)	10.78( 2.06)	3.32**
ユーモアに対する好悪	18.20( 1.72)	18.25( 1.78)	18.17( 1.70)	0.51
5因子合計 <sup>a)</sup>	63.64(10.26)	65.61(10.37)	62.51(10.04)	3.43**

注1：括弧内は標準偏差。注2：全て  $df=546$ 。

a) 参考資料

\*\* $p < .01$ 。

Table 5 年齢別による各因子の平均値

因子	18 歳	23 歳以上	t 値
ユーモアの表出 (意識)	12.99 ( 4.09)	13.85 (3.04)	-1.23
ユーモアの表出 (頻度)	10.13 ( 4.02)	11.65 (3.75)	-2.17*
ユーモアのコーピング利用	10.32 ( 2.57)	11.75 (2.30)	-3.20**
ユーモアへの気づき	10.83 ( 2.19)	11.50 (2.03)	-1.74 <sup>+</sup>
ユーモアに対する好悪	18.44 ( 1.64)	18.55 (1.58)	-0.39
5 因子合計 <sup>a)</sup>	62.71 (10.96)	67.30 (8.43)	-2.47*

注 1：括弧内は標準偏差。注 2：全て  $df=198$ 。

a) 参考資料

<sup>+</sup> $p < .10$ . \* $p < .05$ . \*\* $p < .01$ .

生の平均値が女子学生の平均値よりも高い値を示していた。

年齢による差については、宇恵 (2004a, 2004b) と同様に便宜的に 18 歳 (160 名) と 23 歳以上 (40 名) の 2 つのグループをつくり調べた。その結果、「ユーモアの表出 (頻度)」、「ユーモアのコーピング利用」に統計的に有意な差がみられ、「ユーモアへの気づき」に有意傾向みられた (Table 5)。全て、18 歳の平均値が 23 歳以上の平均値よりも低い値を示していた。

## 考 察

本研究の目的は、宇恵 (2003a, 2003b, 2004a, 2004b, 2005) の一連の研究結果を踏まえて、5 種類のユーモア測定尺度を総合し、1 つの尺度を作成することであった。分析の結果、5 因子 20 項目の尺度を提案することができた。

### 5 因子の構成について

本研究で提案した尺度では、ユーモアの表現力、ユーモアの利用力、ユーモアの理解力の 3 つの側面が測定できると考えられる。ユーモアの表現力はユーモアを作り出すセンス、ユーモアの理解力はユーモアを感じるセンスと言い換えることができ、一般的にも理解しやすい概念であると思われる。また、円滑な対人関係を築くためや環境への適応においてこれら 3 側面の役割は重要であると思われる。

ユーモアの表現力は「ユーモアの表出 (意識)」と「ユーモアの表出 (頻度)」因子から測定でき、意識と行動の両面から個人のもつユーモアの表現力をとらえることができると考えられる。ユーモアの理解力は「ユーモアへの気づき」因子から測定できる。ユーモアの表現力やユーモアの利用力といった側面を測定する尺度は先行研究においても目に留まることが多いが、ユーモアの感知行動の尺度作成を試みている研究 (牧野, 1997) はみられるものの、ユーモアの理解力、すなわちユーモアを感じるセンスを測定する尺度は少ない。ユーモア志向尺度 (上野, 2003) との関連もみられず、ユーモアの一側面を測定している可能性がある。「ユーモアへの気づき」因子は SHQ に含まれていた因子である。SHQ は尺度の信頼性と妥当性への問題が指摘されている (Thorson & Powell, 1993) が、この下位尺度には有用な項目が残されていたと考えられる。

「ユーモアに対する好悪」因子、すなわちユーモアへの好き嫌いを測定している因子は、妥当性の指標としての利用を検討した。この因子に含まれる項目は、項目困難度 (通過率) に偏りがあり、約 90% の調査対象者が肯定的な回答を選んでいった。項目分析の過程で通常は削除される項目であるが、本研究では項目を残し妥当性の指標としての利用を考えた。村上 (2006) が述べているように、尺度構成の際には調査対象者を洗練し、分析結果を歪める資料

を除くことが必要であると思われる。本研究では2つの基準を設定し28名を分析から除いた。「ユーモアに対する好悪」因子の合計値が低く、否定的な回答をした調査対象者を分析対象から除いた（調査対象者の約5%に相当）が、この基準については今後検討の余地が残されている。また、分析から除いた調査対象者には、ユーモアに対して肯定的な考えよりも、否定的な考えをより多く持っている対象者が含まれている可能性がある。このようなケースについても今後分析が必要であると考えている。

### 尺度の信頼性と妥当性について

内的一貫性については「ユーモアに対する好悪」因子の $\alpha$ 係数が低い値を示しており問題が残された。再検査信頼性については相関係数の数値には問題はないが、調査対象者が22名と少なく、対象者を増やしての再確認が必要である。ユーモア志向尺度（上野，2003）の「遊戯的ユーモア志向」と「支援的ユーモア志向」と、「ユーモアの表現」の2因子と「ユーモアのコーピング利用」因子との間に関連がみられたことから、尺度の基準関連妥当性は確認されたと考えられる。しかし、妥当性の指標が1つの尺度では説得力に欠けることから、指標を増やし検討することが必要である。

一般的に、尺度構成の過程では複数年のデータを扱って分析する場合は少ない。本研究では、尺度構成の過程で複数年に共通にみられる項目と因子を選んだ。したがって、項目や尺度の信頼性は高いと予想される。しかし、Thorson & Powell（1993）も本研究と同様に3期間のデータそれぞれに対して因子分析を行っているが、抽出された因子は安定したものではなかった。今後も尺度の信頼性を確認する必要があるだろう。

本研究では、調査対象者への負担の軽減を考え、可能な限り項目数が少なくなることを考えて尺度構成を行った。3期の資料をまとめたデータに対する確認的因子分析の結果では、適合

度指標は良好な値を示していた。しかし、各期の資料に同分析を行った結果では、GFIやAGFIの数値が0.9を若干下回っていた。各因子の項目数を3項目にすると適合度指標の値は向上したが、各因子の合計値（項目の単純加算）の分散は小さくなり、それぞれの構成概念に含まれる意味が狭くなると考えられる（朝野・鈴木・小島，2005）ことから、最終的に各因子4項目とした。

5因子の合計値については今後検討する必要が残された。因子に含まれる項目の選択肢が4件法と5件法の2種類あり、20項目の単純加算を行うことには問題がある。標準得点の利用を含めた換算の方法を検討してみたい。また、先にも述べたように「ユーモアに対する好悪」因子を妥当性の指標として利用するならば、この因子を除いた4因子の合計値を使用すべきかもしれない。これも今後の検討課題である。

### 性差と年齢差について

本研究の結果では、5因子中4つの因子に性差がみられた。しかし、分析の基となる5種類の尺度には性差がみられていない。

ユーモアの性差が生じる理由の一つに性役割期待が指摘されている（McGhee, 1979；Ziv, 1984；上野，2003）。男性は「笑わせる」役割、女性は「笑う」役割、言い換えると、ユーモアをつくるのは男性に多く、ユーモアを楽しむのは女性に多いということである。本研究の結果も、性役割期待による説明が可能であると思われるが、ユーモアを捉える方法や調査対象者の属する社会・文化が異なれば、性差に関する結果も異なると推察される。

年齢差については、5因子中2つの因子に統計的に有意な差がみられた。5年間という短期間であるが、その間の経験によってユーモアの表現力や利用力が向上し、対人関係の適応能力も高くなると考えられる。しかし、Martin（2007）が指摘しているように、本研究のような横断的研究では、年齢差が加齢による発達差

なのか、5年間の世代の差なのかは判断することができない。

引用文献

朝野熙彦・鈴木督久・小島隆矢 2005 入門 共分散構造分析の実際 講談社

Bell, N. J., McGhee, P. E. & Duffy, N. S. 1986 Interpersonal competence, social assertiveness and the development of humour. *British Journal of Developmental Psychology*, 4, 51-55.

Booth-Butterfield, S., & Booth-Butterfield, M. 1991 Individual differences in the communication of humorous messages. *Southern Communication Journal*, 56, 205-218.

マッギー P. E. 鳥津一夫 (監訳) 石川直弘 (訳) 1999 子どものユーモア—その起源と発達 誠信書房 (McGhee, P. E. 1979 HUMOR, its origin and development. San Francisco, W. H. Freeman and Company.)

牧野幸志 1997 ユーモア行動の構造に関する研究 広島大学教育学部紀要 第一部 (心理学), 46, 41-48.

Martin, R. A., & Lefcourt, H. M. 1983 Sense of humor as a moderator of the relation between stressors and moods. *Journal of Personality and Social Psychology*, 45, 1313-1324.

Martin, R. A. 2007 *The psychology of humor: An integrative approach*. Elsevier Academic Press pp. 263-266.

村上宣寛 2006 心理尺度のつくり方 北大路書

房

Svebak, S. 1974 Revised questionnaire on the sense of humor. *Scandinavian Journal of Psychology*, 15, 328-331.

Thorson, J. A., & Powell, F. C. 1993 Development and validation of a multidimensional sense of humor scale. *Journal of Clinical Psychology*, 49, 13-23.

宇恵 弘・乾原 正 1997 親業に関する認知尺度作成の試みⅢ—確認的因子分析による KGPSS の検討 臨床教育心理学研究 23, 1, 7-11.

宇恵 弘 2003a 多次元ユーモア測定尺度 (Multidimensional Sense of Humor Scale: MSHS) 日本語版の作成 (1) 日本心理学会第 67 回大会発表論文集 81.

宇恵 弘 2003b ユーモア測定尺度の作成 (1) 日本応用心理学会第 70 回発表論文集 110.

宇恵 弘 2004a 多次元ユーモア測定尺度 (Multidimensional Sense of Humor Scale: MSHS) 日本語版の作成 (2) 日本心理学会第 68 回大会発表論文集 87.

宇恵 弘 2004b ユーモア測定尺度の作成 (2) 日本応用心理学会第 71 回発表論文集 69.

宇恵 弘 2005 ユーモア測定尺度の作成 (3) 日本応用心理学会第 72 回発表論文集 26.

上野行良 2003 ユーモアの心理学 サイエンス社

ジップ A. 高下保幸 (訳) 1995 ユーモアの心理学 大修館書店 (Ziv, A. 1984 *Personality and Sense of humor*. New York: Springer Publishing Company.)



資料 各因子の項目と選択肢

因子名/原尺度/項目	選択肢				
<b>ユーモアの表出 (意識) / MSHS</b>					
私は友だちからおもしろい人だと思われています。	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う
私はおもしろい話をする人だと言われます。	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う
私は楽しい話をする人だと思われています。	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う
私は人を笑わず話し方ができます。	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う
<b>ユーモアの表出 (頻度) / HI</b>					
あなたは、自分の知っている冗談や話をして、人を笑わせようとする ことがどれくらいありますか。	めったに ありません	1週間に 2,3回	1日に 1,2回	1日に 3,4回	1日に 5回以上
あなたは、おもしろい動きをしたり、おもしろいことを言って、人を笑 わせようとするのがどれくらいありますか。	めったに ありません	1週間に 2,3回	1日に 1,2回	1日に 3,4回	1日に 5回以上
あなたは、ユーモアの表現方法として、だじゃれやゴロ合わせ以外に、 機転の利いたおもしろいことを思いつくことがどれくらいありますか。	めったに ありません	1週間に 2,3回	1日に 1,2回	1日に 3,4回	1日に 5回以上
あなたは、ユーモアの表現方法として、だじゃれやゴロ合わせをどれく らい使用しますか。	めったに ありません	1週間に 2,3回	1日に 1,2回	1日に 3,4回	1日に 5回以上
<b>ユーモアのコーピング利用 / CHS</b>					
緊張した状況におかれると、何かおもしろいことは無いかと探してしま います。	そう 思わない	あまりそう 思わない	やや そう思う	そう思う	
何かに挑戦しようとしている状況であっても、笑えることや冗談を考え ることができます。	そう 思わない	あまりそう 思わない	やや そう思う	そう思う	
問題に直面しても、その中におもしろさを見つけようとすれば楽になる ことができます。	そう 思わない	あまりそう 思わない	やや そう思う	そう思う	
私の経験では、問題に対処する方法としてユーモアは効果的であると思 います。	そう 思わない	あまりそう 思わない	やや そう思う	そう思う	
<b>ユーモアへの気づき / SHQ</b>					
おもしろいことに気づくのは、早い方ですか、遅い方ですか。 <sup>a)</sup>	早い方	やや 早い方	やや 遅い方	遅い方	
周りの人はおもしろい点に気づいているのに、自分だけ気づいていない ことがありますか。	あります	時々 あります	あまり ありません	ありません	
あなたを楽しませるために相手が見せた、ちょっとした変化や合図を簡 単に理解できますか。 <sup>a)</sup>	簡単に できます	どちらかと いえば 簡単に できます	どちらかと いえば 時間が かかります	時間が かかります	
その気になれば、たいていの状況で、こっけいなことや、しゃれや、お もしろいことなどを見つけ出すことができますか。 <sup>a)</sup>	簡単に できます	どちらかと いえば 簡単に できます	どちらかと いえば 時間が かかります	時間が かかります	
<b>ユーモアに対する好悪 / MSHS</b>					
冗談を言って周囲の人を元気づけることは無意味なことだと思います。 <sup>a)</sup>	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う
私はユーモアのある人をすばらしいと思います。	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う
私は冗談を言う人が嫌いです。 <sup>a)</sup>	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う
笑っていると周りの人も楽しくなると思います。	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う

注：選択肢には左から順に1点から4点、あるいは1点から5点を配点した。

a) 逆転項目

以下は分析から除かれた項目

ユーモアのコーピング利用/MSHS

私にとってユーモアは問題の克服にかかせません。	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う
私はときどき冗談やおもしろい話を思いつきます。	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う
私は気分を落ち着かせるために、ユーモアを利用します。	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う
ユーモアを利用すれば物事はうまく進むと思います。	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う

ユーモアの表出 (意識)/HOS

私が冗談やおもしろい話をすれば、周りの人は大抵笑います。	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う
あらかじめ冗談を考えておかなくても、私はおもしろいことが言えます。	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う
私は上手く冗談が言えません。	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う
私は冗談やおもしろい話をすることが上手です。	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらでも ない	やや そう思う	そう思う